



創英の風

2021年夏号
(第21号)

2021年7月7日発行
発行人：上條 優子（図書館長）
編集人：図書・研究委員会

図書館長 挨拶

看護学部 上條 優子



令和3年4月より、図書館長を拝命しました看護学部 在宅看護・看護管理学領域の上條です。

今回は、図書館について私が考えていることを紹介したいと思います。

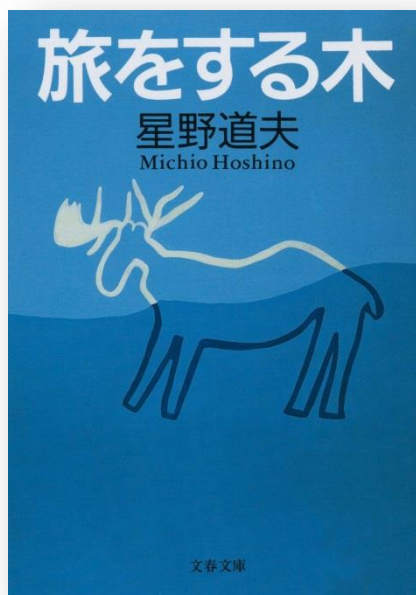
まず、図書館は夢のある場所だと思います。例えば、日本や世界の図書館を調べたところ、歴史的建造物であったり、こどものプレイルームが併設されていたり、おしゃれなカフェがあったり、宿泊できる図書館などがありました。そして、今の時代は、図書館に行かなくても図書館のホームページにアクセスすることで調べたいことが調べられたり、電子版の本を借りることができたりします。

また、こども教育学部と看護学部の1年生に横浜創英大学の図書館の魅力を尋ねたところ、本や絵本が多いこと、きれいであること、窓が大きく緑に囲まれた雰囲気がよいことをあげてくださいました。以上のことから、図書館は多くの可能性を秘めている素敵な場所だと感じています。

次に、ナポレオンは「リーダーとは希望を配る人である」と言っていますが、私は「皆さんに学ぶこと、知ることの楽しさを伝える人」になれたらいいなと思っています。知ることの楽しさ、研究することの楽しさ、そして思ってもみなかったことを発見したときの感動を知って欲しいと思っています。そのために、図書館司書さんや図書・研究委員会のメンバーと一緒に、さらに魅力的な図書館にしたいと思います。

皆さんの夢を実現するために図書館を活用してください。そして、こんな図書館があったらいいなと思うことを教えてください。よろしくお願いします。

教職員からのおすすめ本



こども教育学部 学部長 大内 美智子先生

『旅をする木』

星野道夫／著
出版社名 文藝春秋
出版年月 1999年3月

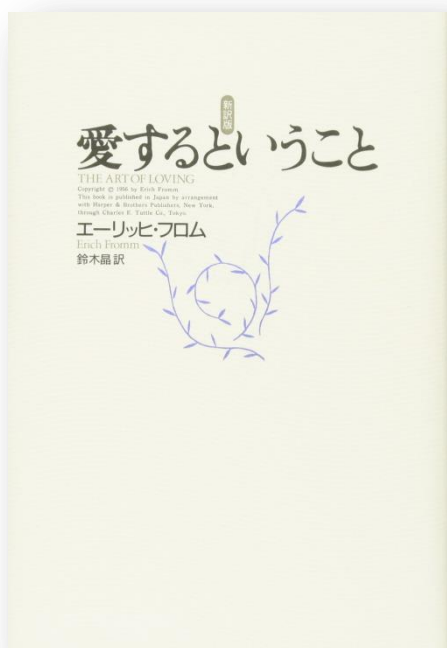
「なぜこんな荒涼とした場所に人が暮らしているのだろう。」著者である星野道夫氏は大学生時に偶然古本屋で見た1枚の写真がきっかけとなりアラスカに心惹かれるようになる。

以降アラスカを生活の基盤にして撮影・執筆活動が続けるが、1996年、取材中ヒグマの事故により急逝。彼の旅の記録を「旅をする木」としてまとめたこの本は、アラスカの自然、風景、命あるもの、出会った人々について静かに味わい深い言葉で綴られ、読んでいるとあたかも自分がその自然に触れ、その光景を見たような気持ちになる。

生きる意味や自然と人間についてなど、知らず知らずのうちに考えを巡らせている自分に気付かせてくれる、私のおすすめの一冊である。



教職員からのおすすめ本



看護学部 横山恵子先生

『愛すること』

エーリッヒ・フロム／著 鈴木晶／訳

出版社名 文藝春秋

出版年月 1991年3月

1956年にニューヨークで出版され、65年たった今も世界中で読み継がれている本です。愛され方についての情報はあふれていますが、愛そのものについて考えることは少ないのではないのでしょうか。

フロムは、「愛は何よりも与えることであり、もらうことではない」と断言します。「愛することとは技術であり、修練が必要」とも言います。愛とは、愛するものの生命と成長を積極的に気にかけることで、この積極的な配慮のないところに愛はありません。見返りを求めず何かを与える献身的な姿勢こそ愛ですが、与えることそのものに喜びを感じるためには、人間的な成長が不可欠でしょう。愛することは、いかに生きるかということでもあるようです。

さあ、これから素敵な愛を経験したいと思っているあなた、この本に目を通しませんか。少し難しいかもしれませんが、きっとあなたの人生に役立つのではないかと思います。



こども教育学部 持田訓子先生

『対話と承認のケア ―ナラティブが生み出す世界―』

宮坂道夫／著

出版社名 医学書院

出版年月 2020年2月

人は物語(ナラティブ)をつくりながら生きています。それぞれの物語はどのようにつくられ、どのように語られるのでしょうか。

著者は、ヘルスケア全体の中で、空気のような存在として広く行われている対話実践に焦点を当て、二者関係におけるナラティブ・アプローチについて探究しています。『私のナラティブ』は、たった一人で作るものとは限らず、『あなた』の前でつくられる」と述べられているように、聴き手と語り手は、対話の中で人生史に向き合い、その個別性を承認するという営みを通して、共に物語を紡いでいくのだと思います。

人の物語に触れるとはどういうことか。そこに何が起こるのか。対人援助にかかわるすべての人に読んでほしい一冊です。



教職員からのおすすめ本



企画入試課 山田武輝さん

『知らないと恥ずかしいジェンダー入門』

加藤秀一／著

出版社名 朝日新聞出版社

出版年月 2006年11月

皆さんの目指す専門職は、かつて「看護“婦”」「保“母”」と呼ばれ、歴史的に“女性”性と深く関わっており、性とは何かを問い直す学問、ジェンダースタディーズとは切り離せない経緯があります。

入門と題しながら難しい本も多いなか、本書は、できるだけ専門用語を使わずに、ものの見方や考え方を著者と読者がともに考えていくように作られており、最初に読む本としてお勧めできます。こうした論考に触れることで、単に知識や技術を得るだけではなく、“常識”を疑い、感情ではなく科学に基づき論理的に“考えて行動のできる”ことこそが教養なのだということにも気づかされるでしょう。

仕事につくうえで、“個”人としての生き方を探るうえで、あなたの心に、きっと残るものと思います。是非、学生のうちにジェンダーについても学んでみてください。



図書館 司書スタッフ

『原発に一番近い病院』

小鷹昌明／著

出版社名 中外医学社

出版年月 2013年10月

震災の1年後に大学病院を退職し、“原発に一番近い病院”福島県の南相馬市立総合病院で働き始めた医師の1年間の綴ったエッセイです。

著者がこの地に移り住んだ理由、外部から来た支援者としての葛藤や、地域社会のために考えて行動していく日々について率直に書かれています。

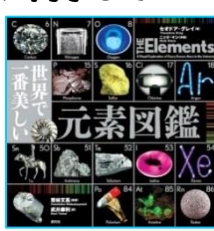
被災地というと悲惨なイメージが連想されるでしょうが、この本では、恋のお話や楽しい忘年会の様子などが描かれています。節ごとに話題が変わり、ブログを読むような感覚で気軽に読めます。

ボランティアや被災地支援に興味がある方には是非読んでもらいたい1冊です。



図書館からのお知らせ

この春、電子書籍を58冊、電子動画を13本導入しました。
学内外のパソコンやタブレット、スマホからでも利用ができます。
ID/パスワードはポータルに掲示しています。ぜひご利用ください。



所蔵一覧は
こちら



展示コーナー一歳時記

7月～9月
趣味・余暇を楽しもう

内容:
もうすぐ夏休みですね。図書館では、趣味・余暇の本も数多く揃えています。今回はあらゆる分野からピックアップしました。自由な時間がたくさんある今こそ、趣味を探してみませんか。



図書館開館予定

2021年7月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2021年8月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

□ 8 : 30～20 : 00

■ 10 : 00～17 : 00

■ 短縮開館 9 : 00～17 : 00

■ 休館日

開館日・開館時間は変更になる
可能性があります。
その際は、掲示等にてご案内
いたします。